特集

安全・安心を全力で守る

―水戸市消防局の活動を紹介します―

問合せ／消防総務課（☎221・0112）

水戸市消防局の歩み

昭和25年に水戸市消防本部が設置されて以来、70年以上の歴史を歩んできました。この間、昭和45年の中央ビル火災や、平成23年の東日本大震災、令和元年台風19号による水害など、さまざまな災害に対応。また、大規模災害時には全国各地で、緊急消防援助隊として活動しました。

令和3年4月には、水戸市消防本部から「水戸市消防局」へと名称を変更しました。現在、85台の消防車両などを有し、約340名の消防職員が活動しています。

近年の取組

消防局では、体制の拡充、施設・機材の整備などを積極的に進めてきました。女性が働きやすい環境づくり、ドローンの活用、感染症への対応などを推進しています。

また、ドクターカーシステム業務の運用、市内すべてのコンビニエンスストアへのAED設置などを、他市に先駆けて実施しました。

▼女性が働きやすい環境づくり

女性が安心して、いきいきと働くことができるよう、女性専用施設の整備や福利厚生の充実など、職場環境づくりに取組んでいます。現在8名の女性消防吏員が、消防隊や救急隊などで活躍しています。

▼ドローンの活用

平成30年にドローンを導入しました。上空からの映像を活用することで、いち早く広範囲の被害状況の把握ができるようになりました。また衛星回線を通じて、情報を全国で共有できるシステムも構築しています。

▼感染症への対応

救急患者と救急隊員の感染防止のため、マスクやゴーグルだけでなく、感染症患者隔離搬送バックや高性能な感染防止衣を使用して、救急搬送に対応しています。

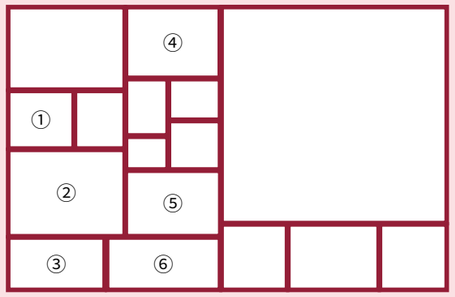
責任感と郷土愛をもって―

市民の皆様には、日頃から消防行政に格別のご支援・ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年、水戸市消防本部から水戸市消防局に名称を改めました。県内唯一の消防局として、他の消防本部と連携しながら、県内をリードする存在として力を発揮していきます。

私たち消防職員・団員は、強い責任感と郷土愛をもって、日々活動しています。近年、災害の多様化・大規模化が進んでおりますが、これからも市民の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、全力で職務を遂行します。今後も消防行政の向上に努めていきますのでどうぞよろしくお願いします。

水戸市消防局 消防局長
小泉直紀



①…医師が現場に急行し、治療を行うためのドクターカー　②…緊急消防援助隊としての出動（令和3年7月伊豆山土砂災害）　③…病原菌の拡散を防ぐ感染症患者隔離搬送バック　④…感染防止衣を着用した救急隊員　⑤…ドローン　⑥…ドローンで撮影した画像（令和元年台風19号による水害）

インタビュー 消防局の仕事と消防職員の想（おも）い

消防の仕事というと、何をイメージするでしょうか。市民の皆さんが目にする機会もある、救急隊や消防隊以外にも、消防には多くの仕事があります。消防局の仕事と消防職員の想いを紹介します。

火災予防課
仲山強さん（35歳）

人命を救うため 火災を未然に防ぎたい

火災予防課は、新築建物の消防設備の審査や、既存の建物の検査、危険物規制などを行っています。石油等の火災を発生させやすい物品を貯蔵している施設などの審査や検査が、私の主な仕事です。

初めの10年は、消防隊員や救急隊員として現場で勤務してきました。その中で、火災が起こる前に防ぐことの大切さを強く感じるようになり、火災予防課での勤務を希望しました。

現場は、その時困っている人を助ける仕事。それに対して、今の仕事は、未然に防ぐ仕事です。どちらも大切ですが、火災を未然に防ぎ、人命を救うことに、強い責任感とやりがいを感じています。

危険物を運搬するタンクローリーも、移動タンク貯蔵所という危険物施設のひとつ。定期的に検査をしています。

北消防署消防隊
栗毛裕人さん（25歳）

「正しく恐れる」ことで 現場に集中する

消防隊に所属しており、火災等による出動や、消火栓等を点検する水利調査を行っているほか、消防署見学の対応なども担当しています。

消防職員を志したきっかけは、中学2年生のときの職場体験です。消防職員の方が規律正しく行動する様子や、親身に話を聞く姿勢に憧れ、自分も消防職員になりたいと思うようになりました。

私は、普段から「正しく恐れる」ことを意識しています。危険な現場は誰だって怖い。それでも常に現場を想定し、日々訓練を重ねることで、現場に集中し、より早く冷静に行動できるようになります。これからも日々の訓練や準備を大切にしていきたいです。

幅広く活動する消防隊。火災はもちろん、交通事故、地震や水害などの際にも、いち早く現場に駆けつけます。

いばらき消防指令センター
軍司剛志さん（55歳）

より早くより正確に 聴き取る力が大切

いばらき消防指令センターでは、水戸市をはじめとする県内20消防本部（33市町）の指令業務を担っています。119番通報は、災害の入口です。一秒でも早く場所や状況を特定し、正確に指令を出すことが求められます。

大切なのは、聴き取る力です。通報者が焦っている場合もありますし、耳が遠い方や外国人の方がかけてくることもあります。相手に合わせてコミュニケーションをとる必要があります。

私はグループ長として、指揮統制や最終確認などを行っています。現場には出ませんが人命に直結する仕事です。特に、通報者に救命措置のアドバイスをし、人命を救うことができた時は、達成感を感じます。

通報者から映像を受信し、状況確認やアドバイスを行う「Live119」などの、新たな仕組みも積極的に導入しています。

城里出張所救急隊
石井茉那さん（24歳）

救急患者や家族が 安心できるように

災害時に活躍する様子を見て、自分も消防職員を目指すようになりました。男性が多い職場ですが、すでに活躍している女性がいたので、不安はなかったです。実際に配属された後も、先輩方は、男女の区別なくひとりの隊員として尊重してくれたので、すぐになじむことができました。

救急車は、唯一、市民が乗る消防車両です。救急患者や同乗する家族の皆さんが、少しでも安心できるよう、話しやすい雰囲気づくりを心がけています。

人命を預かるという責任が伴う仕事ですが、その分やりがいも大きいです。消防職員を目指す女性が、もっと増えるとうれしいです。

市民の方と接する機会の多い救急隊。救急処置を行いながら、救急患者の症状に応じた医療機関へ搬送します。

南消防署特別救助隊
桑名智さん（45歳）

次代につなぐ 救助隊の知識と技術

最前線で活躍する救助隊員に憧れて、消防職員になりました。通算15年以上、救助隊で勤務し、現在は隊長を務めています。救助隊は、危険な現場で活動することも多い部隊です。隊員間のコミュニケーションを大切にして、チームとしてしっかり行動できるよう心がけています。

隊長になった今、力を注いでいることは、知識と技術の継承です。より多くの人命を救助できるよう、若い隊員の能力向上を図っています。私は訓練などの際、すべてを指示するのではなく、まずは考えさせることを意識しています。確かな技術と柔軟な発想を持って、現場で迅速かつ正確に行動できる隊員を育てていきたいです。

危険な現場の最前線で活動する救助隊。いかなる状況でも、多くの人命を救うため、日々厳しい訓練を重ねています。

地域を守る市民の力

水戸市消防団
世代や職業を超え、地域のために

28個分団（定数564名）からなる水戸市消防団。団員は、他に本業を持ちながら活動しています。
問合せ／消防救助課（☎221-0124）

消防団は、地域の防火・防災のリーダーといえる存在です。また、その活動は、火災出動だけでなく、大規模災害時の救助や避難誘導、防火啓発活動など多岐にわたります。

他に本業を持ちながら活動する私たちの原動力は、水戸を愛する想（おも）いです。自らの地域は自らの手で守るという信念を持って、市民の安全・安心を築くため活動しています。

これからも地域の皆さんに、より信頼され、頼られる存在となれるよう、団員一丸となって努めますので、どうぞよろしくお願いします。

水戸市消防団 団長
渡長勝男さん（72歳・農業）

第16分団 団員
小口啓輔さん（27歳・建設業）

知人に誘われたことをきっかけに入団しました。職場の理解もあり、仕事と両立できています。今では、消防団が、地域の仲間との良い交流の場になっています。

女性消防団 団員
生井沢康代さん（58歳・自営業）

紙芝居などを使って子どもたちへ防火の大切さを呼びかけたり、応急手当講習を行ったりしています。防火意識が根付いたまちにしていきたいです。

第12分団 分団長
薬師神斎さん（64歳・屋根工事業）

令和元年台風19号による水害では、住民の避難誘導や安否確認を担いました。長時間の活動でしたが、団員の結束力で乗り越えることができました。

第9分団 副分団長
伊藤晴一さん（53歳・造園業）

出動の時は、団員の安全を一番に考えています。団員や家族あっての活動です。現場では常に目を配り、人命を第一に、ケガをしないよう、判断を大切にしています。

第23分団 班長
大関正信さん（44歳・製材業）

日頃から、車両や資機材などの点検をして、いざという時に、対応できるよう心がけています。また、地域とのつながりを大切にすることも意識しています。

第27分団 団員
播田實友樹さん（34歳・農業）

本業と消防団活動との両立を、時には負担に感じることもあります。しかし、自分たちの地域を守るという誇りと自覚を胸に頑張っています。

水戸市女性防火クラブ連合会
地域に広める防火の意識

地域での防災訓練や啓発活動などをとおして火災予防に取組む団体です。現在約8,000名の会員が活動しています。
問合せ／火災予防課（☎221-0119）

水戸市女性防火クラブ連合会 会長
青木啓子さん（72歳）

水戸市女性防火クラブ連合会では、地域で火災予防を呼びかける広報活動をしたり、災害が起きた際には炊き出しを行ったりと、いつも自分たちにできることは何かを考え、地域のために率先して活動してきました。

「我が家からは火事を出さない」が、私たちのモットーです。私自身、防火クラブに入会して30年以上。気づけば、使い終わるたびにガスの元栓を閉めるし、防災用品の備蓄も欠かさぬようになりました。

最近の火事の傾向や原因について、井戸端会議のように伝えていくことも、大事な活動の一つです。ひとりひとりが、ちょっとでも防火を意識することで、火災を防ぐことができるはず。多くの方に防火クラブに加入していただき、火災予防に努めてほしいです。

消防局からのお知らせ

消防出初式を開催します

日時／1月9日（日）、午前9時から　※荒天時は、10日（月）に順延。
場所／千波公園西駐車場
内容／消防職員・団員の分列行進、消防車両による一斉放水、はしご乗り演技、はしご車試乗、火災予防コーナー（煙体験、消火器体験など）、救急コーナーなど
問合せ／消防総務課（☎221-0112）

市内すべてのコンビニエンスストアにAEDを設置しています

AEDが必要な場合には、最寄りのコンビニエンスストアへ行き、店員に「AEDを貸してください」と言って、AEDを受け取り、使用してください。勇気を持って使用しましょう。

※AEDの使い方を解説した動画を市公式YouTubeチャンネルで公開しています。

問合せ／救急課（☎221-0126）

火災予防に取組みましょう

▼各家庭でできる防火の取組
- 寝たばこは絶対にしない
- ストーブ付近に燃えやすいものを置かない
- コンロを使うときは火のそばを離れない
- コンセントのほこりを定期的に清掃し、不要なプラグは抜く

▼放火防止に努めましょう
- 家の周りは整理整頓し、燃えやすいものを置かない
- 家の周りを明るくする
- ごみは指定日の決められた時間に出す
- 外出時や就寝時は、玄関や通用口を施錠する
- 空き家、倉庫、車庫を施錠する
- 地域ぐるみで放火防止対策に取組む

▼たき火による火災の防止に努めましょう

例年、年明けから春先にかけて、たき火が原因となる火災が多く発生しています。空気が乾燥した風の強い日にたき火をして拡大してしまったり、消火が不十分であったため再び燃え出したりするなど、火災の多くは、火の取扱いに対する不注意が原因です。火の取扱いには、充分に注意しましょう。

問合せ／火災予防課（☎221-0119）

掲載している情報は12月20日時点のものです。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止・延期などを行う場合があります。